

采尺迦内栴白

しゃかないひつぎうた

劇団希望舞台

ふるえるような怒りの奥底に
すがるようないのちの願いがあった

水上勉作

題字 武田昭龍

2023年

9月22日(金)

サントムゼ
UEDA SANTOMUZE

開場 13:00 開演 13:30 (終演 15:10)

小ホール

主催 部落解放同盟上田市協議会
共催 上田市 上田市教育委員会

■ お問い合わせ 部落解放同盟上田市協議会
0268-24-7546 (386-0027 上田市常磐城 1-2-5)

■ 入場無料
■ 全席自由



ものがたり…

訪ねてくる人なんて

いねえあんだ…」

酒を吞まずにはいら
れなかつた父・弥太郎
が死んだ日、ふじ子は
父を焼くカマの掃除を
つづけていた。ふじ子の
胸にさまざまな思い出
がよみがえる。

「なして、人は焼場の
子と聞くと、あつた冷
てえ眼で見るんだべか」

昭和20年、終戦間近
なある吹雪の夜、ふじ
子はまだ小学六年生。
コタツを囲んで家族の
楽しい団欒のひとつと
き、一人の傷を負つた怪
しげな男が転がり込ん
で来た。

「ごんた、吹雪の晩に

父の言葉が心に浮か
ぶ。花は死んだ人の顔
だやー」。

チエロの“生”の響きが

舞台へと誘う。



チエロ
高橋 義人



小泉 真穂
(数内ふじ子)



町田 政則
(数内弥太郎)



荻原 ゆかり
(数内たね子)



中嶋 みくり
(数内梅子)



堀越 桃子
(数内さくら)



伊藤 嘉朗
(窪東伯)



神道 明
(徳兵)

ふり返れば 見えてくる

由井 數 / 演出



「日本人がやらなければならない
仕事、
不自由な体を車イスに乗って地
方の公演地で終演後、スタッフ、出
演者をねぎらい語ってくれた水上
さん。」

人の世界から隔離され、さげす
まされた焼き場の家族、その父親が
裏山に咲かせたコスモスは焼かれた
人の灰が育てたものだ。

人はいずれ死ぬ。誰もが知ってい
ながら、その死を恐れ、怨み嫌い疎
外する。その延長線に人の差別を見



る。

焼き場の娘・ふじ子が「女」と
しての生き方を閉ざされ怒り狂
うのは、けだものの生死をかけた、
たたかいに似ている。たたかいにあ
けくれ、疲れ果てた末にたどりつ
いた世界、運命を受け入れ生きよ
うとするとき見えた世界こそ、彼
女の新しい境地であつた。

失うものをもたない生命力と
言うべきだろうか。さげすみや反
抗から自らを解放するとき、人は
かぎりなく美しく豊かであるに
ちがいない。

混沌の時代にあつて、彼女がた
どりついた境地はきわめて現代的
である。

水上勉さんが逝つて十四年が
過ぎた。

二〇一八年 四月

(長野県川上村出身)



旅公演を観劇して下さった水上さん。

「日本人がしなければなら
ない仕事」と言葉を確かめるよ
うに語られ、「全国千回公演を
目指して下さい」と励ましを頂
きました。



スタッフ

演出 由井 數
舞台監督 米田 亘
音楽 余田 崇徳
美術 杜江 良
照明 高橋 康孝

劇場制作 玉井 徳子
タイトル 武田 昭龍
コスモ画 荒木 幸史